



集英社インターナショナル NEWS

インターナショナル新書

# 『<sup>やまい</sup>教養としての「病」』

佐藤優／片岡浩史著

定価：1,034 円（10%税込）

体裁：新書判／288 ページ

発行：集英社インターナショナル（発売：集英社）

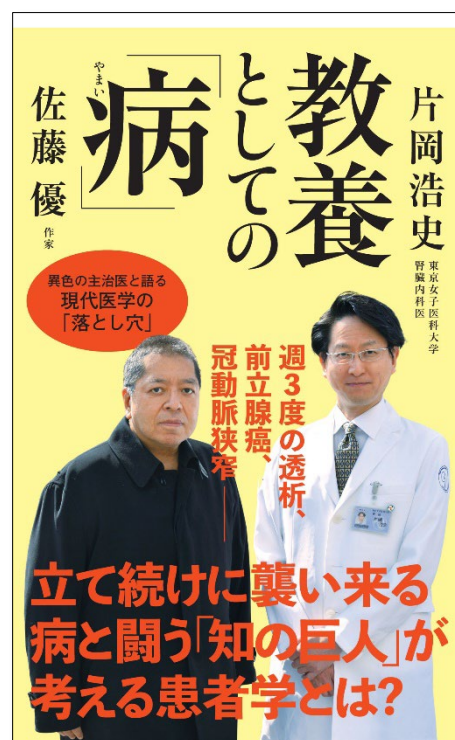
ISBN：978-4-7976-8124-6

6 月 7 日（水）発売！

週 3 回の「人工透析」、  
前立腺癌、冠動脈狭窄、  
そして生体腎移植手術……

立て続けに襲い来る病と闘う

「知の巨人」が考える患者学とは？



私はキリスト教徒なので生命は神から預かったものと考えている。神がこの世で私が果たす使命が済んだと思うときに、私の命を天に召す。この世界に命がある限り、私にはやるべきことがあると考え、仕事と生活に全力を尽くすようにしている。

現時点で腎移植まで進むことが出来るかどうかは、わからない。腎移植が成功すれば、そこで長らえた命を自分のためだけでなく、家族と社会のために最大限に使いたいと思う。（「まえがきにかえて」より抜萃）

# 京都大学法学部卒という異色のキャリアを持つ主治医との対話の中で語られる「生と死の」哲学——。

## 【本書の目次】

はじめに——病と私 （佐藤優）

第一章 医師と患者の「共同体」をどう作るか

第二章 「生き方の基礎」を見つけた場所

第三章 今の「医学部ブーム」が危ない理由

病と戦う——「異質なもの」との対峙 （片岡浩史）

第四章 新自由主義が日本の医療を荒廃させた

第五章 人はみな「死すべき存在」である

佐藤優／1960年、東京都生まれ。作家、元外務省主任分析官。同志社大学大学院神学研究科修了後、外務省入省。在英国日本国大使館、在ロシア連邦日本国大使館に勤務した後、本省国際情報局分析第一課において、主任分析官として対ロシア外交の最前線で活躍。02年、背任と偽計業務妨害容疑で東京地検特捜部に逮捕され、05年に執行猶予付き有罪判決を受ける。09年に最高裁で有罪が確定し、外務省を失職。05年に発表した『国家の罫 外務省のラスプーチンと呼ばれて』で第59回毎日出版文化賞特別賞受賞。06年に『自壊する帝国』で第5回新潮ドキュメント賞、第38回大宅壮一ノンフィクション賞受賞。

片岡浩史／1970年、NY生まれ。腎臓内科医（東京女子医大）。京都・洛星高校を卒業後、京大法学部に入学。卒業後はJR西日本で働くが、その現場経験を通じて、医療に携わりたいと思い、退社。鹿児島大学医学部で学ぶ。腎臓内科医として日々患者と向き合う一方で、腎臓病研究者として医学の進展を、社会保険診療報酬請求書審査委員や診療ガイドライン作成委員として日本の「医療の質」の向上を追求・模索している。医学博士。

**\*貴媒体にてご紹介をご検討いただけますと幸いです。**

## 【本書のお問い合わせ先】

編集担当：集英社インターナショナル 出版部

電話 03-5211-2630 <https://shueisha-int.co.jp/>